

Topic !

展示室の愛称、「長岡京市まちなかミュージアム れきしる長岡京」に決定。乞うご期待。

令和 8 年(2026)12 月、市役所新庁舎 2 階に OPEN する
歴史資料展示室の準備が、着々と進行しております！！！！

今秋、多数のご応募をいただいた歴史資料展示室の愛称募集。
市役所公式 LINE で投票の結果、ついに愛称が決定しました！
それは…

「長岡京市まちなかミュージアム れきしる長岡京」

です！市役所という、市民の皆さまが日常的に利用される、
「まちなか」にあるこの展示室から、長岡京市域の歴史や文化財
を身近に感じ、魅力を再発見できる「みんなのミュージアム」
となることを目指します。

また、市民の皆さまにとって新たな学び、交流の拠点となるよう、
担当者一同、尽力してまいります。今後、企画展示内容の詳細や、
オープン記念イベントなどに関する情報は、市役所公式ウェブ
サイト、LINE などを通じて随時お知らせしてまいります。



特報！！展示室では何が見られる？企画展の内容は！？

常設展示では、考古資料の実物が並び、さまざまな視点から
観察する鑑賞体験を提供します。また、このたび重要文化財
に答申された、非公開の光明寺御本廟及び御本廟拝殿の外観
が 3D 画像としてデジタル展示される予定です。ご自身の手
で操作してお楽しみください。

また企画展では、ホンモノの文化財を展示いたします。

第 1 回の目玉には、なんと本邦初公開のアノ文化財が…！？
中身はまだ明かせませんが、歴史の裏側に問いを投げかけます。

Topic !

文化財保存活用課は、新庁舎 7 階へ。



令和 8 年(2026)1 月 5 日(月)——私たち文化財保存活用課は、
市立図書館の 3 階から市役所新庁舎の 7 階に移転いたします。
埋蔵文化財に係る届出をはじめ、今後当課へご用の皆さまは、
新庁舎 7 階へお越しくださいますよう、お願いいたします。
来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

Have a happy new year!

Topic !

今里・赤根天神社本殿修理速報



今里にある赤根天神社。今年度、「京都府社寺等文化資料保全
補助金」を活用した修理を実施しました。神社の本殿とその上の
覆屋は、長岡京市指定文化財。今修理では屋根のペンキ塗り直し、
カヤで葺かれた覆屋を獣害から守るために、防護ネットを張る
処置などが施されました。写真は修理後、ネットが張られた様子。
ネットが目立たないよう、色を工夫するなど、周囲の景観に配慮
した施工になっています。

大伽藍へ。

光明寺・本堂（御影堂）など 8 棟、
重要文化財に。

congratulations!

Moshi- Mosu

もっと知れば、
もっと好きになる！
長岡京市の歴史・文化財

VII

門をくぐると、静寂のなかに連なる伽藍が姿を現す。

西山浄土宗の総本山・光明寺。

その象徴ともいえる本堂（御影堂）をはじめ、

阿弥陀堂、釈迦堂、勅使門、御本廟及び御本廟拝殿、鐘楼、総門——

江戸時代に整えられた 8 棟の建造物が、

このたび一括して重要文化財に指定される。

表紙写真：中門

担当者に聞く！光明寺、重要文化財指定への裏話！？

粟生・光明寺——そこは江戸時代における浄土宗西山派の大伽藍。

光明寺のはじまり

長岡京市粟生にある光明寺は西山浄土宗の総本山。建久9年(1198)、熊谷直実(法名・蓮生、1141-1207)がこの地に草庵を結び、法然(1133-1212)を開山に迎えたのが始まりとされます。法然没後、専修念仏への弾圧が激しくなり、京都・東山にあった法然の墳墓は、破却が画策されます。

これを受けた門弟らは、法然の遺骸をこの地に移して荼毘に付し、遺骨を納めた石塔を建てたと伝えられています。

それから八百余年。幾度もの火災とそのたびに行われた再興を経て、いまの壮麗な伽藍が形づくられました。

享保19年(1734)の大火では御本廟や鐘楼など、わずかな建物を除き全山が焼失。その後、宝暦3年(1753)に本堂(御影堂)、寛政11年(1799)に阿弥陀堂が再建され、今日の寺観が徐々に整えられました。

江戸時代に整えられた堂舎群

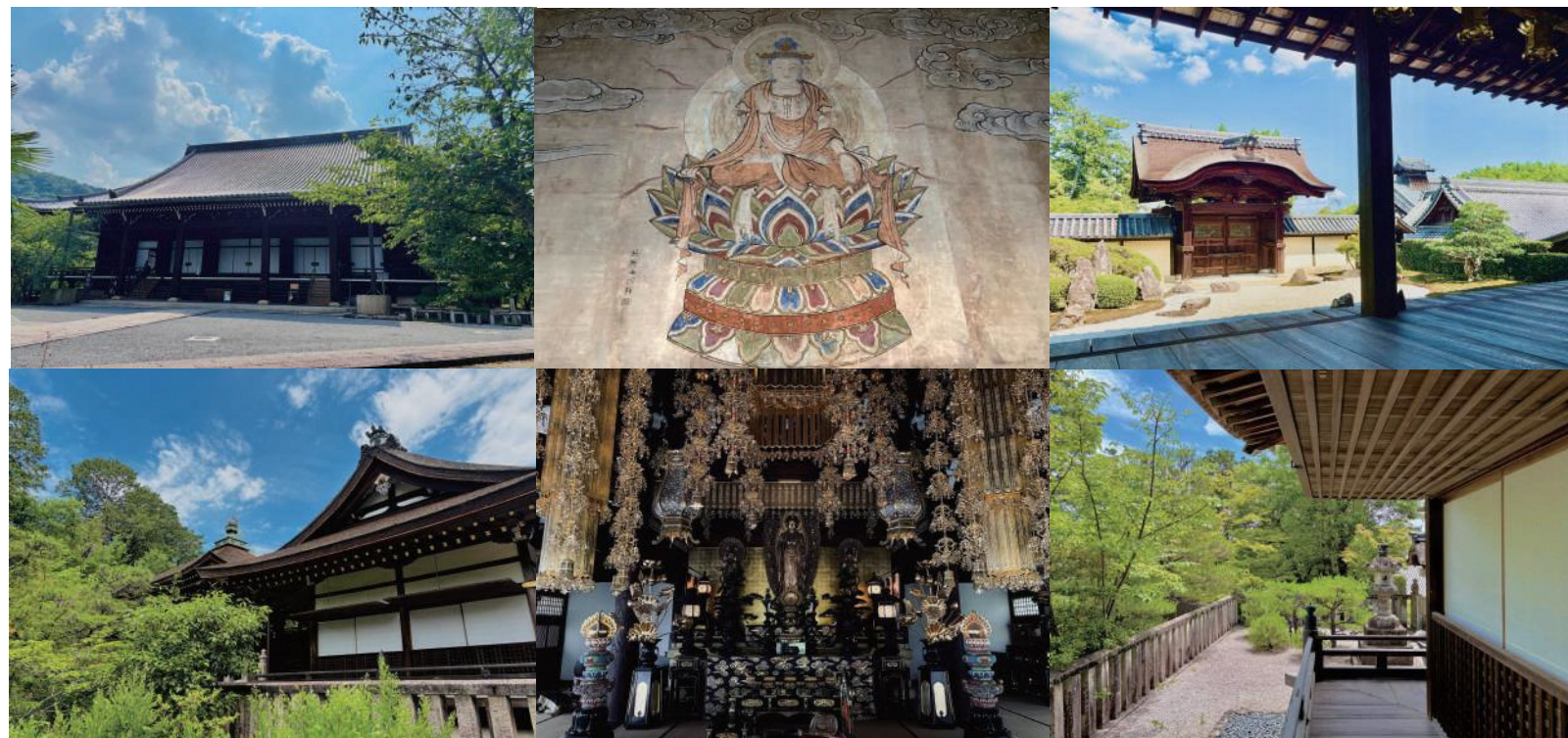
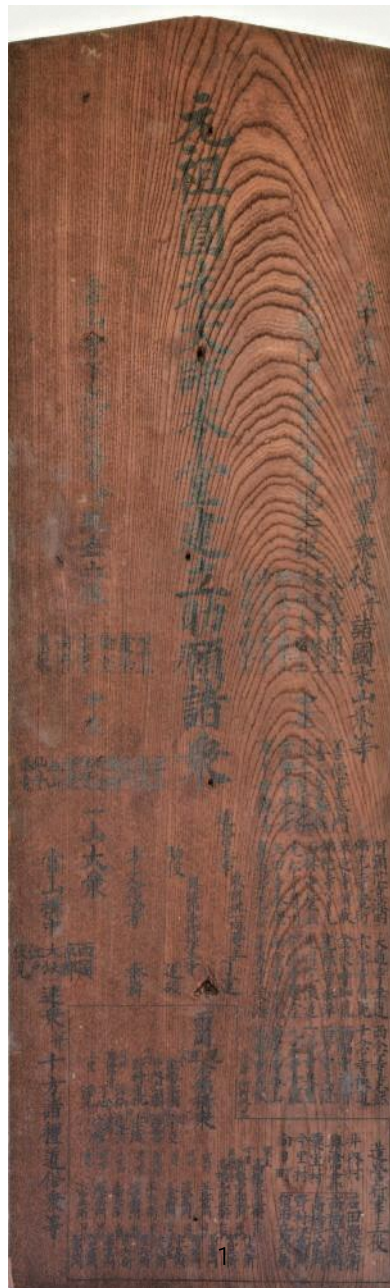
本堂(御影堂)は、法然をかたどった張子の御影を安置する巨大な堂宇。内部に仕切りを設けない開放的で自由度の高い空間は江戸時代の浄土系寺院としては最初期の遺例です。

本堂背後の山腹に建つ御本廟は、法然の遺骨を納める聖域。内部に法然を祀る石造の五重塔が立ち、外観には多彩な建築彫刻が施されます。まさに、宗祖の聖跡としての荘厳と、江戸時代の美意識が調和する空間です。

阿弥陀堂は、地元・西岡大工の手による仏堂で、当時の京都近郊の建築技術の高さがうかがえます。釈迦堂は特異な平面構成をそなえた方丈形式の仏堂です。かつては、宝永年間に再建された内裏常御殿より伝来した障壁画で彩られていました。

今秋、文化審議会は参詣空間を構成するこれら8棟の建造物を、新たに重要文化財に指定するよう、答申しました。時を超えて受け継がれる、祈りと美の伽藍です。

◀本堂(御影堂)棟札のうち、その1



左上 本堂(御影堂) 中上 勢至菩薩像(石田幽汀筆・本堂所在) 右上 釈迦堂からみた勅使門
左下 御本廟及び御本廟拝殿 中下 阿弥陀堂内陣 右下 御本廟拝殿

*御本廟及び御本廟拝殿は非公開エリアです。釈迦堂は特別公開時のみ公開されます。また勢至菩薩像も来迎壁後方のため、普段は見られません。

